

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第1四半期の来館者数は4,164人で、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(7,084人)と比べ、2,920人、約41.2%の減となり、判定評価の評価項目にある80%以上の水準に満たないことから、5点減点とする。

月別来館者数:1,179人(4月)、1,720人(5月)、1,265人(6月)

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・ 通常の設定保守・点検等が適切に実施されている。
- ・ 6月には映像玩具修理作業を行うなど、不具合箇所が認められた場合は、必要に応じて修繕を実施している。
- ・ 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。

● 資料等の維持管理

- ・ 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・ 展示事業では、第4四半期に引き続き、6月25日まで通常展「BOWシリーズの全貌―没後30年川喜多和子が愛した映画」の展示を行った。展示期間の終盤である6月の観覧者数は、前年同月比52.5%と苦戦を強いられる結果となったが、企画展関連イベントである友の会限定散策ツアーでは、和子の葬儀で大島渚監督が読んだ弔辞を共有し、川喜多家ゆかりの地を訪れるなど、参加者に対し、展示内容への関心を高め、理解を深める機会を提供した。
- ・ 上映事業では、『家族の肖像』『ミツバチのささやき』など企画展示に関連したBOWシリーズの作品を中心に選定しており、比較的安定した観覧者数を維持している。また、前日の荒天により、6月3日から6月24日に振替開催となった『東京画』上映＋トークイベントは、川喜多和子が在籍していたフランス映画社を内側から語る貴重な時間となり、チケットが完売となるなど大変好評であった。

● 調査、研究及び情報提供

- ・ 次期企画展示の調査研究のため、国立映画アーカイブや関係者を訪ね、映画関連資料の調査及び資料の下見等を行っている。
- ・ 和辻哲郎氏の親族や旧和辻邸に係る研究者と旧和辻邸に関する情報交換を行った。
- ・ 情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。

● 広報及び宣伝等

- ・ 市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載しているほか、市役所本庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて広報及び宣伝等に努めた。
- ・ 記念館へ訪れたことがない市民等への利用促進につながるよう、記念館ホームページ内の記念館だよりを定期的に更新し、実施したイベントの報告を行った。

● その他の事業

- ・ ゴールデンウィーク中に実施したシネマウィークでは、『荒野に希望の灯をともし』が平均観覧者数約43人となるなど好評であったが、上映作品によって観覧者数が大きく分かれる結果となった。
- ・ アウトリーチ事業として、開館以来初めてとなる出張活弁上映会を鎌倉児童ホームで実施し、子どもたちにサイレント映画の魅力を発信するとともに、映画に対する興味を深める機会を提供した。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・ 例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
4月分:5月12日、5月分:6月14日、6月分:7月14日提出

● 事故・苦情対応

- ・ 情報資料室の書籍に対し図書館のようなコピーサービスを実施してほしいとの要望について、内部で情報共有を行い、適切に対応策を検討している。

● その他

- ・ キュレーターによるギャラリートークや上映後の上映解説は、展示及び上映作品に付加価値を与え、観覧者の満足度を高める取り組みとなっている。
- ・ コミュニティシネマセンター主催の「こどもと映画プログラム」や「夏休みの映画館」に参加し、若年層の観客開拓及び記念館スタッフの能力向上に努めている。
- ・ 昨年度に引き続き、5月13日からは近隣文化施設4館と連携した「ミュージアムめぐりスタンプラリー」を実施しており、他館の来館者への周知を通じて新たな客層の獲得に努めている。
- ・ 観光客が増える紫陽花の時期には、鎗木清方記念美術館との連携事業として「紫陽花が咲く記念館を巡る展示解説ツアー」を実施し、庭園という魅力を活用することで記念館への集客につなげた。
- ・ 4月8日、9日 旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)一般公開(8日:223名/9日:331名 合計554名)
5月3日～7日 旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)特別公開(3日:131名/4日:96名/5日:93名/6日:98名/7日:58名 合計476名)

5 全体評価

- ・ 今期の来館者数は4,164人で、開館以来の同期比で3番目に少ない来館者数となり、前指定管理期間の同四半期来館者数平均値(7,084人)と比べると約58.8%と、判定評価の評価項目にある80%以上の水準に満たなかった。そのため、5点減点とするが、庭園を有効活用した近隣館との紫陽花ツアーの実施や、若年層をターゲットとした出張上映会の開催など、新たな来館者の確保に向けた積極的な姿勢は評価できる。
- ・ 6月に実施した満足度アンケートでは、展示及び上映等について多くの意見・要望が寄せられている。来館者の満足度を更に高め、記念館の集客につなげるため、引き続き来館者のニーズについて分析を行い、今後の記念館の運営に活かしてほしい。
- ・ 施設の維持管理などの業務に関しては、日常点検をはじめ、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和5年度第1四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第1四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	0	×	5
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			5

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%